

KAYABA RALLY TEAM

2026 ALL JAPAN RALLY CHAMPIONSHIP REPORT #6

2026/9/4~6 北海道帯広市

Rd.6

RALLY HOKKAIDO



スペシャルステージ

SS数: 14
路面: グラベル / 一部ターマック

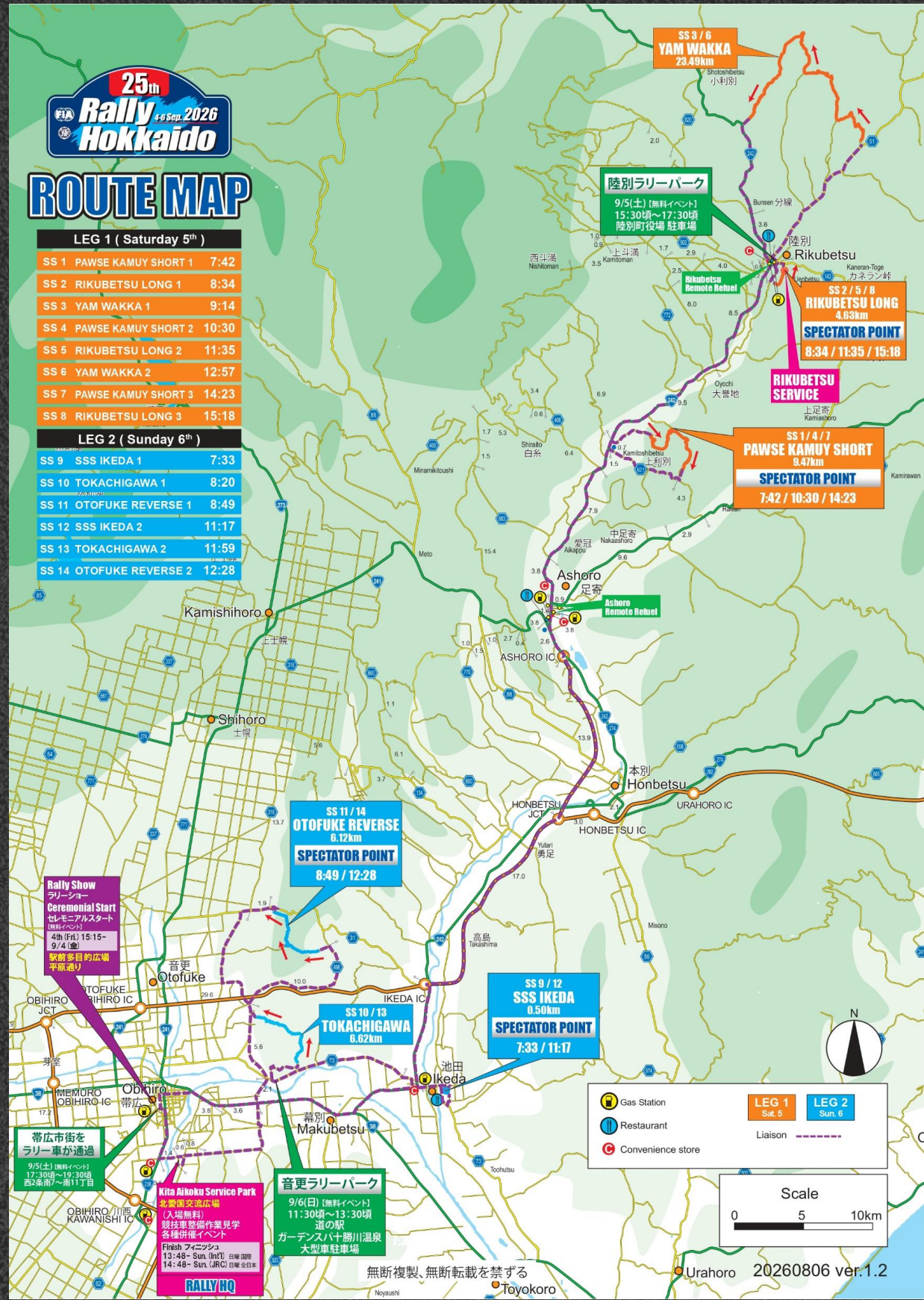
総走行距離: 665.00 km
SS距離: 115.76 km

LEG1 9/5(土) 天候: 晴れ / 路面: ミックス			LEG2 9/6(日) 天候: 晴れ / 路面: ドライ		
SS1	PAWSE KAMUY SHORT 1	9.47 km		SERVICE C (15 min)	
SS2	RIKUBETSU LONG 1	4.63 km	SS9	SSS IKEDA 1	0.50 km
SS3	YAM WAKKA 1	23.49 km	SS10	TOKACHIGAWA 1	6.62 km
SS4	PAWSE KAMUY SHORT 2	9.47 km	SS11	OTOFUKE REVERSE 1	6.12 km
SS5	RIKUBETSU LONG 2	4.63 km		SERVICE D (20 min)	
SS6	YAM WAKKA 2	23.49 km	SS12	SSS IKEDA 2	0.50 km
SS7	PAWSE KAMUY SHORT 3	9.47 km	SS13	TOKACHIGAWA 2	6.62 km
SS8	RIKUBETSU LONG 3	4.63 km	SS14	OTOFUKE REVERSE 2	6.12 km
	SERVICE A (20 min)			SERVICE E (10 min)	
	SERVICE B (45 min)				

SS1/4/7	PAWSE KAMUY SHORT	道幅の広い高速ステージ。緩いコーナーが多く、旋回速度をいかに高く保てるかがタイムの鍵となる。グラベルとターマックが切り替わる区間もあり、路面特性に合わせた走り分けが求められる。
SS2/5/8	RIKUBETSU LONG	2004年のWRCラリージャパンでも設定された、ラリー北海道を代表する名物ステージ。前半の舗装林道区間から後半のグラベル路面の陸別サーキットへ突入するレイアウトが特徴的で、2011年から続く伝統的なステージ。
SS3/6	YAM WAKKA	2024年と同方向、2025年とは逆方向で走行する23km超のロングステージ。ラリー北海道屈指の難所で、特に後半は荒れた路面が続く。長時間にわたる集中力が要求され、最後まで気の抜けない高難度のステージ。
SS9/12	SSS IKEDA	野球場のグラウンドを使用した、観客の目の前を走るギャラリーステージ。レイアウトは昨年までと同様だが、雨が降ると路面が非常に滑りやすくなる。走行ラインの見極めと丁寧な車両操作が鍵となる。
SS10/13	NEW TOKACHIGAWA	今年新たに設定された音更町のステージ。緩やかなコーナーと長い直線が多い高速レイアウトだが、道幅は狭く、滑りやすい土質も相まって、高速域での正確な車両コントロールが求められる。
SS11/14	OTOFUKE REVERSE	柔らかな土が厚く堆積しており、走行を重ねるほど深いわだちがしやすい。車両の下回りを打つほど掘れる箇所もあるうえ、急なアップダウンやジャンピングポイントもあり、車両への負担が大きいステージ。



全体図



チーム体制



- 監督 : 梶本 一憲
リーダー : 大西 一智 (第2期)
ドライバー : 石黒 一暢
コ・ドライバー : 穴井 謙志郎
メカニック : 増谷 大志
松田 幸也
三國 大河
北原 由享 (第2期)
エンジニア : 古川 優太 (第2期)
マネージャー : 池戸 敬也 (第2期)
チームアドバイザー : 奴田原 文雄 (NUTAHARA Rally Team)
メカニックアドバイザー : 山田 淳一 (RUTS RACING)



リザルト

クラス7位 / 総合14位 (JN-1クラス10台 / 総合80台 参加)

クラス	No.	Dr.	Co-Dr.	参加車両名	車両型式	車両区分	LEG 1										LEG 2										総合計	クラス 順位	総合 順位
							SS1	SS2	SS3	SS4	SS5	SS6	SS7	SS8	Penalty	合計	SS9	SS10	SS11	SS12	SS13	SS14	Penalty	合計					
JN-1	52	新井 大輝	立久井 大輝	R2R×YAHAGI GRヤリスラリー2	MXPA12	FIA	5:13.3	3:27.6	15:54.6	5:07.9	3:25.8	15:10.0	5:04.0	3:24.6		0:56:47.8	0:44.5	4:14.2	3:52.8	0:40.6	4:07.3	3:51.0		17:30.4	1:14:18.2	1	1		
JN-1	51	鎌田 卓麻	松本 優一	Castrol TEIN DL ファビア	ABCUFX11	FIA	5:12.2	3:29.6	16:05.9	5:08.6	3:26.3	15:33.2	5:08.0	3:27.8		0:57:31.6	0:43.0	4:13.8	3:52.8	0:42.8	4:08.8	3:51.1		17:32.3	1:15:03.9	2	2		
JN-1	54	奴田原 文雄	東 駿吾	ADVAN KTMS GRヤリスラリー2	MXPA12	FIA	5:17.2	3:31.3	16:12.3	5:11.7	3:25.9	15:23.1	5:09.7	3:26.6		0:57:37.8	0:47.4	4:20.7	3:57.5	0:40.1	4:16.0	3:54.7		17:56.4	1:15:34.2	3	3		
JN-1	53	勝田 範彦	保井 隆宏	ラックルキー-DLGRヤリスRally2	MXPA12	FIA	5:17.2	3:34.5	16:24.7	5:13.0	3:31.2	15:41.6	5:08.4	3:31.0		0:58:21.6	0:45.3	4:24.0	4:01.1	0:40.7	4:19.5	4:02.3		18:12.9	1:16:34.5	4	4		
JN-1	55	福永 修	齊田 美早子	スミロン焼肉ふじCJTE555DLファビア	ABDKZX11	FIA	5:26.9	3:37.1	16:48.7	5:22.2	3:34.0	16:18.9	5:16.1	3:34.5		0:59:58.4	0:43.0	4:27.7	4:08.6	0:43.3	4:25.7	4:05.3		18:33.6	1:18:32.0	5	5		
JN-3	68	徳尾 慶太郎	石田 一輝	DLクスコitzzフォルテックGRヤリス	GXPA16	RJ	5:42.7	3:44.6	17:41.8	5:43.7	3:42.9	16:53.7	5:43.1	3:44.7		1:02:57.2	0:46.5	4:37.9	4:20.6	0:43.3	4:36.0	4:24.3		19:28.6	1:22:25.8	1	6		
JN-1	59	今井 聡	高橋 英悠	AKM・MOTORSPORTS・C3R5	SXHMZ6/A00	FIA	5:49.4	3:43.0	18:01.2	5:31.4	3:40.3	17:11.2	5:30.9	3:41.3		1:03:08.7	0:45.2	4:44.3	4:24.5	0:42.3	4:45.1	4:21.3		19:42.7	1:22:51.4	6	7		
JN-3	63	内藤 学武	大高 徹也	YH TEIN Motys GRヤリス	GXPA16	RJ	5:46.5	3:48.0	17:44.9	5:36.2	3:43.7	16:56.5	5:38.1	3:44.7		1:02:58.6	0:49.3	4:39.9	4:24.3	0:56.4	4:38.3	4:27.1		19:55.3	1:22:53.9	2	8		
JN-3	70	貝原 聖也	西崎 佳代子	ADS多賀製作所K1カヤバGRヤリスDL	GXPA16	RJ	5:41.0	3:47.1	17:44.0	5:34.9	3:44.2	17:28.1	5:41.5	3:46.4		1:03:27.2	0:49.5	4:43.1	4:25.2	0:44.8	4:39.7	4:25.0		19:47.3	1:23:14.5	3	9		
JN-3 (MCC)	64	三枝 聖弥	木村 裕介	IMSF DL GRヤリス 初号機	GXPA16	RJ	5:40.5	3:51.0	17:45.2	5:36.7	3:50.1	17:19.4	5:35.6	3:50.6		1:03:29.1	0:49.6	4:42.2	4:26.4	0:44.7	4:42.5	4:30.3		19:55.7	1:23:24.8	4	10		
JN-3 (MCC)	71	奥井 優介	藤田 めぐみ	クスコGRG水戸けやき台DL WMヤリス	GXPA16	RJ	5:40.3	3:51.8	18:12.7	5:40.1	3:47.8	17:11.4	5:44.8	3:46.1		1:03:55.0	0:47.4	4:41.2	4:21.8	0:42.3	4:44.6	4:15.5		19:32.8	1:23:27.8	5	11		
JN-3 (MCC)	65	米林 慶晃	菅野 総一郎	KTMS NRS GRヤリス	GXPA16	RJ	5:46.6	3:52.2	17:58.9	5:44.9	3:47.2	17:21.3	5:41.8	3:45.6		1:03:58.5	0:49.6	4:39.8	4:24.8	0:43.1	4:36.0	4:25.5		19:38.8	1:23:37.3	6	12		
JN-3	61	大倉 聡	豊田 耕司	AISIN GR Yaris DAT	GXPA16	RJ	5:36.7	3:48.7	18:28.3	5:40.9	3:42.2	17:31.6	5:37.3	3:45.6		1:04:11.3	0:49.0	4:39.2	4:22.0	0:42.9	4:35.5	4:17.8		19:26.4	1:23:37.7	7	13		
JN-1	60	石黒 一暢	穴井 謙志郎	カヤバ YH GRヤリス	GXPA16	ASN	5:47.3	3:54.6	18:10.3	5:38.4	3:45.3	17:23.2	5:41.5	3:48.0		1:04:08.6	0:49.3	4:49.0	4:27.3	0:43.7	4:44.5	4:24.0		19:57.8	1:24:06.4	7	14		
JN-1	58	松岡 孝典	竹下 紀子	MATEX-AQTEC DL GRヤリス	GXPA16	ASN	5:52.3	3:53.7	18:00.6	5:51.1	3:47.0	17:15.0	5:50.4	3:48.2		1:04:18.3	0:47.1	4:46.0	4:23.7	0:44.8	4:44.1	4:23.1		19:48.8	1:24:07.1	8	15		
JN-3	66	石川 昌平	佐々木 翔	ARTAオートバックスGRヤリス	GXPA16	RJ	5:48.2	3:50.2	18:18.6	5:45.7	3:45.3	17:29.4	5:42.8	3:46.0		1:04:26.2	0:50.0	4:49.1	4:25.7	0:45.0	4:46.2	4:23.3		19:59.3	1:24:25.5	8	16		
JN-3	69	和氣 嵩峻	高橋 和多利	DUNLOP・IRS・Gセキネンランサー	GXPA16	RJ	5:39.5	3:48.8	17:47.9	5:37.7	3:42.1	17:09.1	5:41.2	3:44.2		1:03:10.5	3:00.0	4:40.2	4:17.2	0:44.0	4:37.1	4:18.2		21:36.7	1:24:47.2	9	17		
JN-3 (MCC)	62	長尾 綱也	尼子 祥一	DL WPMS GRヤリス	GXPA16	RJ	5:52.5	3:47.5	18:29.0	5:48.3	3:42.7	17:25.7	7:08.6	3:47.6		1:06:01.9	0:46.1	4:38.6	4:18.1	0:42.1	4:33.4	4:15.3		19:13.6	1:25:15.5	10	18		
JN-3	67	山田 啓介	藤井 俊樹	FIT-EASYソミック石川IDLランサー	GXPA16	RJ	5:48.2	3:53.0	19:00.3	6:25.0	4:08.3	17:35.6	5:47.3	3:48.0		1:06:25.7	0:48.6	4:35.3	4:16.6	0:43.9	4:37.8	4:17.8		19:20.0	1:25:45.7	11	19		
JN-3	72	堀田 信	松浦 俊朗	LINK plug-in GRヤリス	GXPA16	RJ	5:57.4	3:55.2	18:22.4	5:57.0	3:48.7	17:53.3	5:54.3	3:48.7		1:05:37.0	0:52.4	4:59.4	4:32.1	0:45.5	4:49.0	4:30.2		20:28.6	1:26:05.6	12	20		

SS1 PAWSE KAMUY SHORT 1 9.47km走行タイム **5:47.3** ステージ順位：クラス **8位** / 総合 **16位** 合計タイム順位：クラス **8位** / 総合 **16位**

今回のラリーでは、大会前に降った雨によって悪化した路面状況への対応力が鍵となったが、日当たりの良いこのステージでは路面は完全に乾いていた。今シーズンのリタイヤ率の高さを反省し、リラックスして丁寧に運転することを強く意識してスタート。路面表面に積もった粒の大きい「浮き砂利」の影響で車両挙動に不安定さは残ったものの、大きなミスなく走破し、まずは落ち着いた滑り出しとなった。

**SS2 RIKUBETSU LONG 1 4.63km**走行タイム **3:54.6** ステージ順位：クラス **10位** / 総合 **22位** 合計タイム順位：クラス **9位** / 総合 **20位**

序盤の林道区間は綺麗に舗装された路面だが、砂利道の走行に特化したグラベルタイヤを装着しているため、タイヤのグリップ力を確かめながらの丁寧な操作を意識した。路面は全体的に乾いていたものの、日当たりの悪い区間には雨の影響による泥が残っており、路面状況を見極めながら走ることが重要となった。滑りやすい区間ではやや速度を落としすぎたものの、トラブルなくステージをクリア。

**SS3 YAM WAKKA 1 23.49km**走行タイム **18:10.3** ステージ順位：クラス **9位** / 総合 **16位** 合計タイム順位：クラス **9位** / 総合 **16位**

今大会最長となるロングステージ。場所によって雨の残り方が大きく異なり、前半・中盤・終盤で路面状況が目まぐるしく変化する。乾いた区間ではしっかりとペースを上げる一方、濡れた区間では慎重に走るなど、路面状況に合わせたメリハリのある走行が重要となった。また、本大会では車両整備を行うサービス時間が20分と短く、車両へのダメージをできる限り抑えることも意識し、労わりながらステージを走破した。

**SS4 PAWSE KAMUY SHORT 2 9.47km**走行タイム **5:38.4** ステージ順位：クラス **8位** / 総合 **12位** 合計タイム順位：クラス **8位** / 総合 **15位**

SS1の2ループ目の走行となる。路面が乾き切っていることを確認できたため、自信を持ってステージに臨んだ。丁寧な操作を維持しながらも、攻められる区間ではしっかりとペースを上げることができた。その結果、SS1から9秒のタイムアップを果たし、総合12位のステージタイムを記録。速さを求めながらも車両挙動を乱さない安定した走りができ、今回目指していた理想的なステージアタックとなった。

**SS5 RIKUBETSU LONG 2 4.63km**走行タイム **3:45.3** ステージ順位：クラス **8位** / 総合 **14位** 合計タイム順位：クラス **8位** / 総合 **15位**

SS2の2ループ目となるステージ。1ループ目の走行で滑りやすい箇所を確認できていたため、路面状況に応じてしっかりとメリハリをつけ、タイムロスを抑えたドライビングを意識した。路面状況が良化したこともあり、SS2から9秒のタイムアップを果たした。多くの観戦者が集まる陸別サーキットで、カヤバ号の走りを間近で見えていただくことができた。

**Flexi-SERVICE A (20min)****SS6 YAM WAKKA 2 23.49km**走行タイム **17:23.2** ステージ順位：クラス **9位** / 総合 **15位** 合計タイム順位：クラス **8位** / 総合 **15位**

20分間のサービスAを車両無傷の状態で迎え、定常整備を実施して臨んだSS6は、SS3の2ループ目となるステージ。SS3から約4時間後の走行となり、路面はほぼ乾いていたものの、日陰には依然として滑りやすく危険なコーナーが残っていたため、日当たりを意識しながらアタックした。SS3から約50秒のタイムアップを果たしたものの、他車も同様に大きくタイムを縮めており、順位を維持する結果となった。

**SS7 PAWSE KAMUY SHORT 3 9.47km**走行タイム **5:41.5** ステージ順位：クラス **8位** / 総合 **12位** 合計タイム順位：クラス **8位** / 総合 **15位**

3ループ目の走行となり、多くの競技車両が通過したことで路面にはわだちが目立ち始め、特に低速コーナーでは深く形成されていた。タイヤをうまくわだちの凹部分にはめ込み、ジェットコースターのレールに沿うように走ることが重要となる。タイヤがわだちから飛び出し、車両挙動を乱す場面もあるも、大きなミスにはつなげず、SS4と同様に総合12位のステージタイムを記録した。

**SS8 RIKUBETSU LONG 3 4.63km**走行タイム **3:48.0** ステージ順位：クラス **8位** / 総合 **17位** 合計タイム順位：クラス **8位** / 総合 **15位**

ラリー北海道1日目の走行を締めくくるステージ。3回目となる陸別サーキットは路面の大部分が乾き切っていたものの、名物である川を横切るウォーター splash 先のコーナーは非常に滑りやすく、そこでタイムをロス。SS5からはタイムダウンとなったが、大きなミスやトラブルなく確実にステージを走破した。1日を通して安定した走行を続け、1日目の合計タイムでは総合15位の順位を守り切った。

**Flexi-SERVICE B (45min)**

SS9 SSS IKEDA 1 0.50km走行タイム **0:49.3** ステージ順位：クラス **8位** / 総合 **13位** 合計タイム順位：クラス **8位** / 総合 **14位**

ラリー北海道2日目は、野球場のグラウンドを使用したギャラリーステージからスタート。多くの観戦者が見守る中、見た目には乾いているように見えた路面だったが、実際に走行すると想像以上に泥が残り、タイヤのグリップを得にくい状態となっていた。大きく走行ラインを外すことなく確実に走り切ったものの、トップから6秒差の49.3秒となり、クラス7位／総合13位のステージタイムを記録した。

**SS10 TOKACHIGAWA 1 6.62km**走行タイム **4:49.0** ステージ順位：クラス **9位** / 総合 **19位** 合計タイム順位：クラス **8位** / 総合 **15位**

今年新たに設定されたNEWステージ。長い直線が続くハイスピードなコースである一方、道幅は狭く、路面表面には浮き砂利も多く見られた。硬い土質でわだちは比較的できにくいものの、場所によっては車両挙動を大きく乱すほどのわだちも形成されていた。序盤で想像以上に滑る路面を警戒し、マージンを取った走行へ切り替えた結果、クラス9位／総合19位と伸び悩んだものの、確実に走破した。

**SS11 OTOFUKE REVERSE 1 6.12km**走行タイム **4:27.3** ステージ順位：クラス **8位** / 総合 **19位** 合計タイム順位：クラス **7位** / 総合 **14位**

2024年にリタイアを喫した因縁のコース。レグ1終了時点では、JN-1で同じ車両規格の58号車・松岡孝典選手が車両不具合を抱えていたこともあり、9.7秒のリードを築いていた。しかしレグ2に入ると、松岡選手は不具合を抱えながらもSS9以降猛追。SS11でも差を大きく縮められ、ステージ終了時点でその差はわずか0.9秒となった。クラス7位を懸けた接戦のまま、サービスを挟んで最終ループを迎えることとなった。

**SS12 SSS IKEDA 2 0.50km**走行タイム **0:43.7** ステージ順位：クラス **7位** / 総合 **12位** 合計タイム順位：クラス **7位** / 総合 **14位**

無傷でサービスを迎え、万全の体制で最後のループへ。ここからは松岡選手の猛追に耐え、クラス7位を守る戦いとなった。2回目のIKEDAは路面がさらに乾き、1回目よりも走りやすいコンディションに変化。短いステージでコースも把握できていたため、ペースノートのリーディングを行わず、ドライビングに集中する戦略を選択した。松岡選手を上回るタイムを記録し、その差を2.0秒まで広げることに成功した。

**SS13 TOKACHIGAWA 2 6.62km**走行タイム **4:44.5** ステージ順位：クラス **7位** / 総合 **16位** 合計タイム順位：クラス **7位** / 総合 **14位**

SS10では想像以上に滑る路面に苦戦し、良いフィーリングを得られなかったTOKACHIGAWAの2回目。苦手意識が残る中でも、1ループ目で得た経験を活かし、車両を壊さずに出せるペースの限界を見極めながらアタックした。大きなミスなく走破したものの、猛追する松岡選手には0.4秒届かず、2.0秒まで広げたリードは1.6秒に縮小。わずかな差を残して最終ステージを迎えることとなった。

**SS14 OTOFUKE REVERSE 2 6.12km**走行タイム **4:24.0** ステージ順位：クラス **8位** / 総合 **14位** 合計タイム順位：クラス **7位** / 総合 **14位**

ラリー北海道を締めくくる最終ステージ。多くの競技車両が通過したことでわだちはさらに深くなり、車両の下回りを打ち付けるほど荒れた路面となっていた。松岡選手との差はわずか1.6秒。「壊さず、速く走る」という今回目指してきたドライビングを強く意識してアタックした。松岡選手に0.9秒先行されたもののリードを守り切り、最終的に0.7秒差でクラス7位を死守した。



PHOTO GALLERY



DRIVER 石黒 一暢 - Ishiguro Motonobu -



まず、前戦ラリーカムイでのクラッシュから車両を復旧し、ラリー北海道のスタートラインに送り出していたいただいたチーム員の皆様、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。今シーズンは安定感と速さの両立を目指してきましたが、度重なるリタイヤを受け、8月は練習方法を見直し、安定して走り切ることを重視して準備を進めてきました。特に9月は2戦が開催されるため、「壊さず完走する」ことを絶対条件に臨みました。

車両修理の都合で事前テストを行えないまま迎えた一戦でしたが、難しい路面コンディションの中でも徐々にペースをつかみ、最終日には同じJP4車両のライバルと僅差の戦いを展開し、最終的にクラス7位を守り切ることができました。車両を壊さず走り切ることを最優先としながらも、速さを大きく犠牲にしないバランスを取れた走りができたことで、次戦につながる手応えを得ることができました。

次戦は路面がターマック（舗装路）で行われる福島ラウンドとなります。今回得た安定感を維持しながら、さらに上の結果を目指して挑んでまいります。引き続き応援よろしくお願いいたします。

Co-DRIVER 穴井 謙志郎 - Anai Kenshiro -



2025年に全戦完走を果たしたことを受け、2026年はさらなる成績向上を目指していましたが、リタイヤが頻発する苦しい展開が続いていました。今回は、社員クルーとして大切な「車を壊さずに完走させる」という原点に立ち返り、力みすぎずに丁寧に競技を進めることを目指して臨みました。大会前の事前準備をこれまで以上に徹底し、競技中もスムーズに進行できるよう努めました。先行車両の走行タイムから路面状況を推測したり、石黒が落ち着いて安定した走り続けられるような声掛けやサポートを行ったりと、コ・ドライバーとしてできることを一つ一つ確実に積み重ね、ドライビングに集中できる環境づくりに注力しました。

その結果、車両を一切壊すことなく、大きくタイムを犠牲にしない安定したペースを実現できました。メカニックの確実なサービス作業のおかげで車両トラブルも無く、最難関ともいわれるラリー北海道で満足できる内容を残せたことを本当に嬉しく思います。次戦は初開催となる福島県ラウンドです。初めてカヤバ号を見ていただくお客様も多くいらっしゃると思うので、カッコいい走りをお見せできるよう全力で頑張ります。

LEADER 大西 一智 - Ohnishi Kazutomo -



8月よりチームリーダーとして新たに加入しました。今回が初めてのラリー参加となり、競技全体の流れや自分の役割、各メンバーの役割について確認しながらの活動となりました。前戦のクラッシュから車両修理が間に合うか時間との闘いでしたが、関係各社のご協力により、無事にラリー北海道へ車両を送り出すことができました。競技は金曜日までの雨の影響で難しい路面コンディションとなりましたが、大きなクラッシュやトラブルなく完走できたことは大きな成果だと思います。一方で、サービス作業を中心に改善すべき点も見つかかり、次戦以降のチーム運営に繋がる多くの学びを得ることができました。また、競技面だけでなく、これまで十分ではなかったSNS等での情報発信にも注力していきたいと考えています。

今年は1期生から2期生へとメンバーが入れ替わる節目の年です。全員が自ら社内公募に手を挙げ、ラリーやモータースポーツへの強い思いを持ったメンバーです。このメンバーと一丸となって活動し、ラリーやモータースポーツを通してカヤバの魅力を多くの方に発信できるチームを目指していきたいと思っています。

NEXT RALLY

9/25～27 福島県伊達市
MSCCラリー in 伊達福島 2026

Special Thanks



カヤバラリーチームの活動は
各種SNSにて発信しています。



@KAYABA_KYB



@kybcorporation



@kyb_official

KYB
Our Precision, Your Advantage

カヤバ株式会社